

令和 2 年度独立行政法人日本芸術文化振興会年度計画

令和 2 年 3 月 30 日制定

令和 3 年 3 月 22 日変更

独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 31 条の規定により、平成 30 年 3 月 30 日付け 29 文科政第 97 号で認可を受けた独立行政法人日本芸術文化振興会中期計画に基づき、令和 2 年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

本年度の事業の実施に当たっては、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災からの復興状況を踏まえて、当振興会に課された使命の達成に努める。また、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「2020 年東京大会」という。）を契機とする文化プログラムへ積極的に参画し、特に、その中核的事業として実施する「日本博」の取組を推進する。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 次に掲げる活動に対して助成金を交付する。

- ① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための公演、展示等の活動
 - (a) 芸術文化振興基金（以下「基金」という。）による助成
 - i. 現代舞台芸術の公演、伝統芸能の公開その他の活動
 - ii. 美術の展示、映像芸術の普及その他の活動
 - iii. 異なる芸術の分野の芸術家又は芸術に関する団体が共同して行う活動、特定の芸術の分野に分類することが困難な活動等
 - (b) 文化芸術振興費補助金（以下「補助金」という。）による助成
 - i. 我が国の芸術団体の水準向上及びより多くの国民に対する鑑賞機会の提供を図る優れた舞台芸術の創造活動（舞台芸術創造活動活性化事業）
 - ii. 我が国の芸術団体の水準向上と国際発信力の強化を図り、我が国の国際的なプレゼンスの向上に寄与するため国内外で実施する実演芸術の公演活動（国際芸術交流支援事業）
 - iii. 優れた日本映画の製作活動（映画創造活動支援事業）
- ② 文化施設において行う公演、展示等の活動又は文化財を保存し、若しくは活用する

活動で地域の文化の振興を目的とするもの

(a) 芸術文化振興基金による助成

- i. 文化会館、美術館その他の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動
- ii. 伝統的建造物群、遺跡、民俗芸能その他の文化財を保存し、又は活用する活動

(b) 文化芸術振興費補助金による助成（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

- i. 我が国トップレベルの劇場・音楽堂等が行う事業
- ii. 地域の中核的役割を担う劇場・音楽堂等が行う事業
- iii. 複数の劇場・音楽堂等が複数又は単一の実演芸術団体等と共同して行う実演芸術の新たな創造活動
- iv. 劇場・音楽堂等相互の連携・協力による巡回公演

③ その他、文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動（以下、基金による助成）

(a) アマチュア、青少年等の文化団体が行う公演、展示その他の活動

(b) 文化財である工芸技術又は文化財の保存技術の復元、伝承その他文化財を保存する活動

イ 助成金交付事務の効率化等

① 基金による助成と補助金による助成の全分野に係る審査基準を策定し、ホームページ等で事前公表する。

② 助成対象活動について、専門委員及び専門調査員並びにプログラムディレクター及びプログラムオフィサー（以下「PD・PO」という。）等により、採択の審査過程で当該活動に期待された点の実現状況の確認等を目的とした公演等調査を行う。補助金による助成対象活動のうち、舞台芸術創造活動活性化事業、劇場・音楽堂等機能強化推進事業、国際芸術交流支援事業について、調査結果を踏まえて評価を行い、その結果を次年度の助成対象活動の採択のための審査等に活用する。

なお、舞台芸術創造活動活性化事業については、令和 2 年度助成分から助成制度の見直しを行っており、公演等調査及び評価の実施方法についても一部見直しを行う。

③ 助成対象活動に係る会計の執行状況の調査のため、職員による会計調査を実施するとともに、PD・PO による助成対象活動の公演等調査及び助成対象団体との意見交換を実施する。

- ・ 会計調査：90 件以上（団体数）
- ・ 公演等調査：540 件以上（助成対象件数）

④ 特定の分野にとらわれることなく分野を横断した調査研究を進めるため、PD・PO

等の体制強化を行う。

また、助成対象活動の公演等調査及び助成対象団体との意見交換等の結果を踏まえ、助成対象分野の現状等について調査分析を行うとともに、海外における公的助成システムの実態調査を行うなど、文化芸術に対する支援策等をより有効に機能させる上で必要となる調査研究を実施する。

- ⑤ 地域の文化振興等の活動について、応募書類の受付に係る業務等の効率化が図れるよう、地方公共団体と連携協力する。
- ⑥ 助成金交付事務手続の合理化を図るため、応募書類の電子データ受付を先行して導入し、令和3年度助成対象活動の募集で使用する。また、助成システム全体の更改に向けた、設計・構築作業を行う。

ウ 基金運用収入の将来見込みを踏まえ、補助金による助成事業との役割分担にも留意しつつ、効果的かつ効率的な支援の方策を含めた基金及び基金助成事業の将来の在り方について検討し、令和2年度中に方針を固め、令和4年度分から新制度による芸術文化振興基金助成対象活動を募集できるよう準備を進める。

エ PD・PO等を活用した審査・評価等の仕組みについては、今後とも文化庁と連携し、透明性の高い審査や公正な事後評価等の在り方について検討を行い、より有効かつ適切な助成制度の構築に努める。併せて、地域におけるアーツカウンシル機能を有する組織との連携を推進するための「アーツカウンシル・ネットワーク」や「情報プラットフォーム」を活用し、機関相互の情報交換やノウハウ等を共有するとともに、人的交流について検討を進める。

オ 助成事業によって得られた成果等について、公演事業、調査・養成事業等の振興会の他の事業に活用することを検討する。

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術団体が基金を含めた多様な助成制度を活用することができるよう、官民の文化芸術活動への支援に関する情報を収集し、ホームページ等を通じて提供する。

イ 振興会が実施する文化芸術活動に対する助成事業を周知するため、ホームページでの情報提供を充実させる。また、引き続き助成対象活動の事例集を作成・配布するとともに、ホームページに掲載する。

ウ 助成対象活動の募集に当たっては、ホームページへの情報掲載を行うとともに、地方公共団体及び全国の公立文化施設等へポスター等を配布する。

エ 文化芸術団体等を対象とした応募相談会を、東京及び京都のほか、各地域の主要都市で開催する。また、平成30年度から、地域におけるアーツカウンシルとの連携を開始したことを活用し、新たな地域での応募相談会の実施の可能性について検討する。

- ・ 応募相談会実施件数：300件以上（団体数）

(3) 芸術文化振興基金の管理運用

基金の管理運用については、安全性に留意するとともに、安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、金融市場及び経済情勢の把握に努め、振興会に設置する資金管理委員会において運用方針、金融商品等の検討を行い、効率的な方法により実施する。

(4) 文化芸術活動に対する緊急支援（文化芸術活動の継続支援事業）

文化芸術の振興を図るため、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により活動自粛を余儀なくされた文化芸術関係団体等に対し、感染対策を行いつつ、直面する課題を克服し、活動の再開・継続に向けた積極的取組等に必要な経費を支援する。

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表 1 のとおり主催公演を実施する。また、日本博に関連した公演を企画する。

イ 演目の拡充

① 歌舞伎における復活等の上演に際しては、「国立劇場文芸研究会」が補綴を行い、台本を作成する。

また、歌舞伎の新作脚本募集については、周知及び募集を行う。

② 文楽について、新作の上演に向けて上演台本作成作業を行う。また、上演が途絶えていた場面の復活上演のための準備を行う。

③ 舞踊・邦楽の新作委嘱作品の上演を行う。

④ 大衆芸能の新作脚本募集事業に関し、これまでの入選作品から上演可能と考えられるものの上演について検討をすすめる。

⑤ 能楽について、国立能楽堂で制作初演された新作・復曲作品の再演を行う。また、他の能楽堂等で上演された、新作・復曲作品の再演を行う。

⑥ 組踊等沖縄伝統芸能について、上演機会が少ない優れた演目や、古典の様式を踏まえた新作組踊の上演を行う。

また、「創作舞踊大賞」として琉球舞踊の新作を公募し、選考・表彰を行う。

(2) 現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表 2 のとおり主催公演を実施する。

(3) 青少年等を対象とした公演

ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施するほか、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画

を別表4のとおり実施する。

イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表3のとおり実施し、親子でも楽しめるよう工夫する。

ウ 2020年東京大会を契機とする文化プログラムに対応し、外国人を対象とした公演・入門企画を別表5のとおり実施する。

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等(連携協力、全国・国際公演等)

ア 外部専門家等の意見を聴取するとともに、観客へのアンケート調査を適宜実施し、公演事業に反映させる。

イ 我が国における伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点として、中期計画の方針に従い、次のとおり公演等を実施する。

- ① 国、地方公共団体、芸術団体、企業等と連携協力し、共催、受託等による公演等を別表6のとおり実施する。
- ② 全国各地の文化施設等における公演等を別表7のとおり実施する。
- ③ 国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表8のとおり実施する。
- ④ 伝統芸能の振興等のため、青少年、外国人等を対象としたワークショップを各分野で開催する。

(5) 快適な観劇環境の形成

ア 観客にとって快適で安全な環境を提供するため、観客の要望等を踏まえ、売店・レストラン等におけるサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけを行う。

また、高齢者、障害者、外国人等の利用者にも配慮し、劇場内外の環境整備等各種サービスの充実に努める。特に、2020年東京大会の期間中は、外国人利用者への対応の充実に図る。

イ 入場券販売において、PCやスマートフォン等、観客の利用形態に応じた多様な購入方法を提供する。

ウ 公演内容等の理解を促進するため、解説書等を作成するとともに、音声同時解説や字幕表示等のサービスを提供する。

また、鑑賞団体等に対し、公演内容の事前説明会等を適宜行う。

エ 幅広い観点で実施する観客へのアンケート調査等の活用により、観客等の要望、利用実態等を把握し、サービスの向上に活用する。

ホームページや各劇場に設置するご意見箱等を通じて寄せられる意見・要望については、一元的に管理し、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化を図る。また、内容を集計・分析し、その結果をサービスの向上に活用する。

(6) 広報・営業活動の充実

ア 効果的な広報・営業活動の展開

- ① 公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用して、広報活動を効果的に実施する。
- ② 振興会各種事業に関する広報の充実に努め、ホームページ等を活用して随時最新の情報を提供する。
 - (a) ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実に努めるとともに、アクセス動向等を分析して利用状況を把握する。
 - (b) SNS やメールマガジンにより、公演等の情報を随時配信する。
 - (c) 外国語版のホームページやパンフレット等の充実に図り、外国人に対する情報発信を効果的に行う。より効果的な情報発信を行うための検討を始める。
 - (d) 文化プログラムへの参加を通して、国内外に向けた振興会各種事業の情報発信及び周知を効果的に行う。
- ③ 振興会各種事業に関する広報誌を次のとおり発行する。
 - ・ 日本芸術文化振興会ニュース（毎月発行）
 - ・ 国立劇場おきなわ情報誌「華風」（毎月発行）
 - ・ 新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」（毎月発行）
- ④ 観劇を促進するため、観客の需要を踏まえ、シーズンシートやセット券等を企画・販売するほか、各種キャンペーンを企画・実施する。
- ⑤ 団体観劇を促進するため、公演内容に応じた営業活動を展開するとともに、旅行代理店・ホテル等との連携を強化する。
- ⑥ 若年層の観客増を図るため、大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」を運営し、サービスを提供する。また、引き続き会員校の増加に努めるとともに、利用者の要望等を踏まえ、サービスの拡充を図る。
- ⑦ 全職員が集客に対する意識を高め、知人や関係するコミュニティー等に対して積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施する。

イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、観劇の促進のため、会報等による情報提供を定期的に行うとともに、入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供する。また、引き続きアンケート調査の結果等を、会員向けサービスの充実に活用する。

- ① あぜくら会（本館・演芸場・能楽堂）
 - ・ 会報「あぜくら」（毎月発行）
 - ・ 会員向けイベント：年8回程度
- ② 国立文楽劇場友の会

- ・ 「国立文楽劇場友の会会報」(年 6 回発行)
- ・ 会員向けイベント：年 4 回程度
- ③ 国立劇場おきなわ友の会
 - ・ 「国立劇場おきなわ友の会会報」(年 4 回発行)
 - ・ 会員向けイベント：年 3 回程度
- ④ クラブ・ジ・アトレ(新国立劇場)
 - ・ 会報「ジ・アトレ」(毎月発行)
 - ・ 会員向けイベント：年 12 回程度

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

ア 中期計画の方針に従い、劇場施設の使用効率の向上を図るとともに、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与する。

イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を行う。

- ① 各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載する。
- ② パンフレットやダイレクトメールにより広報を行う。
- ③ 利用希望者に対し適宜説明・見学等の機会を設け、劇場利用者の増加に取り組む。
- ④ 利用者に対しアンケート調査を実施し、その調査結果を踏まえ、サービスの充実を図る。
- ⑤ 他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査を引き続き行うとともに、調査結果を検討し活用する。

ウ 振興会が有する 6 劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を効果的に行う。

(8) 日本博の運営・実施

日本の文化芸術の魅力を国内外に発信する「日本博」について、縄文から現代までの美術・文化財の展覧会、伝統芸能、現代舞台等の舞台芸術公演、文化芸術祭等に関する企画・実施等と、国内外にわたり、訪日外国人等に対して戦略的なプロモーションに関する企画・実施等における、中心的な役割を担う事務局を運営する。

ア 「日本博」の総合テーマ及びコンセプトの下で主催・共催事業を体系的に実施する。

- ① 「日本博」の中核となる主催・共催型プロジェクトについて、企画原案の提案を受け付ける。受け付けた企画原案については、日本芸術文化振興会審査・評価委員会の評価、および文化庁企画委員会の助言等を得て採択する。(別表 9※令和 2 年度実施分)
- ② 主催・共催型プロジェクトの実施に当たって、採択された団体等との契約・支払等に関する業務を行う。併せて、団体等との連絡・調整に関する業務も行う。

- ③ 主催・共催型プロジェクトの終了後、団体等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

イ 「日本博」の総合テーマ及びコンセプトの下でイノベーション型プロジェクトを実施する。

- ① 「日本博」プロジェクトとして企画・実施する新規制・創造性が高い文化芸術プロジェクト等について補助事業の公募を受け付ける。受け付けた事業については、日本芸術文化振興会審査・評価委員会の審査、および文化庁企画委員会の助言等を得て採択する。
- ② イノベーション型プロジェクトの実施に当たって、採択された団体等への補助金交付に関する業務を行う。
- ③ イノベーション型プロジェクトの終了後、団体等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

ウ 各地域や団体の特色ある企画について参画プロジェクトとして認証する。

- ① 認証申請に関する相談への対応、申請者との調整を行う。参画プロジェクトへの認証申請は随時受け付ける。
- ② 参画プロジェクトの認証手続きを随時実施する。
- ③ 認証した参画プロジェクトの終了後、団体等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

エ 「日本博」のプロジェクト全体について、戦略的なプロモーションを一体的に企画・実施する。

- ① 「日本博」の戦略的なプロモーションに関する方針を検討し、策定する。
- ② 「日本博」のプロジェクト全体について、多様な媒体を活用し、国内外に向けた情報発信を効果的に行う。
- ③ プロモーション業務の終了後、事業者等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

オ 「日本博」の開催に際し実施される、文化芸術活動およびそれらのプロモーション活動を通じた国家ブランディング・インバウンド拡充等、文化的・社会的・経済的効果等を効果検証の基本方針や指標等に沿って、定量的・定性的に測定し、その結果を検証する。

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

本年度は、伝承者養成事業開始 50 周年の記念の年に当たる。伝統芸能の伝承者養成事業の成果を広く一般に周知し、国民の関心の喚起、理解の促進を図るため、広報活動を充実させる。

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 中期計画の方針に従い、各分野の充足状況及び年齢構成等を把握するとともに、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等からの伝統芸能の伝承状況等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施する。

また、研修修了者の動向把握等により成果の検証を行い、伝承者の充実のため、次年度以降に対象とする分野、人数等について不断の見直しを行う。

① 歌舞伎俳優・歌舞伎音楽

(歌舞伎俳優)

(a) 第24期生(研修期間2年、4名)の2年目の養成研修(修了)

(b) 第25期生(研修期間2年、2名)の1年目の養成研修

(歌舞伎音楽)

(c) 竹本第24期生(研修期間2年、2名)の1年目の養成研修

(d) 鳴物第17期生(研修期間2年、1名)の1年目の養成研修

(e) 長唄第8期生(研修期間3年、1名)の2年目の養成研修

② 大衆芸能

(a) 寄席囃子第16期生(研修期間2年、5名)の1年目の養成研修

③ 能楽(ワキ・囃子・狂言：研修期間6年)

(a) 第10期生(2名)の4年目の養成研修

(b) 第11期生(3名)の1年目の養成研修

④ 文楽(太夫・三味線：研修期間2年)

(a) 第29期生(2名)の2年目の養成研修

⑤ 組踊(立方・地方：研修期間3年)

(a) 第6期生(10名)の1年目の養成研修

⑥ 研修生の技芸の習得及び向上の成果を測るため、研修発表会を別表10のとおり実施する。

⑦ 以下の研修生について、次年度の養成研修を実施する場合、募集人員及び応募資格等について検討し、募集を行う。

(a) 第26期歌舞伎俳優

(b) 第30期文楽

イ 研修修了者を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施する。

① 既成者研修発表会を別表10のとおり実施する。

② 能楽について、研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進する。

ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項

- ① 養成事業についての国民の関心を喚起し、理解の促進を図るため、研修修了者の活動状況等をホームページ等で紹介するなど、事業の周知に努める。周知に当たっては、令和2年に養成事業が50周年の節目を迎えることを踏まえ、その成果等を広くアピールする。
 - (a) 伝承者養成事業50周年「伝統芸能伝承者養成研修概要（令和2年度版）」（仮）の刊行
- ② 養成成果の活用及び研修修了者等が実演経験を積む機会の充実を図るため、研修修了者等によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施する。
- ③ 研修生募集について、ホームページでの告知、パンフレットや研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める。
- ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施して、両分野の相互交流を図る。
- ⑤ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れや、外部研修への協力等に努める。

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア 中期計画の方針に従い、次のとおり研修を実施する。

実施に当たっては、民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意する。

また、外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを行う。

なお、研修発表会等のうち、国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表8のとおり実施する。

- ① オペラ研修（研修期間3年）
 - (a) 第21期生（5名）の3年目の研修（修了）
 - (b) 第22期生（5名）の2年目の研修
 - (c) 第23期生（4名）の1年目の研修
 - (d) 第24期生（5名程度）の募集
 - (e) 研修発表会等を別表10のとおり実施する。
 - (f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、9月～10月と3月に海外研修を行う。
- ② バレエ研修（研修期間2年）
 - (a) 第16期生（7名）の2年目の研修（修了）
 - (b) 第17期生（6名）の1年目の研修

- (c) 第 18 期生（6 名程度）の募集
- (d) バレエ予科生について、次のとおり研修及び募集を行う。
 - ・ 第 11 期生（1 名）の 2 年目の研修
 - ・ 第 12 期生（5 名）の 1 年目の研修
 - ・ 第 13 期生（若干名）の募集
- (e) 研修発表会等を別表 10 のとおり実施する。
- (f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、海外研修を行う。

③ 演劇研修（研修期間 3 年）

- (a) 第 14 期生（12 名）の 3 年目の研修（修了）
- (b) 第 15 期生（9 名）の 2 年目の研修
- (c) 第 16 期生（16 名）の 1 年目の研修
- (d) 第 17 期生（16 名程度）の募集
- (e) 研修発表会等を別表 10 のとおり実施する。
- (f) 修了後の幅広い活躍を目標とし、11 月に国内研修を行う。

イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

- ① 研修事業についての国民の関心を喚起し、理解の促進を図るため、ホームページ等で事業の周知に努める。
- ② 学校等との連携による研修成果の活用及び研修生等が実演経験を積む機会の充実を図るため、様々な文化普及活動への参画に努める。
- ③ 研修生募集について、ホームページでの告知、研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める。
- ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施して、両分野の相互交流を図る。
- ⑤ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れや、外部研修への協力等に努める。

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施する。

- ① 歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成し、演技・演出の参考及び上演内容の理解促進等に活用する。
- ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録、能楽に関する資料及び

組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録について調査研究を行う。その成果については次のとおり刊行等を行い、研究者及び研究機関等に広く頒布して、伝統芸能の保存及び振興のため活用する。

- (a) 「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十五巻
- (b) 企画展「日本人と自然」図録（能楽堂）
- (c) 特別展「勸進能」図録（能楽堂）
- (d) 「琉球・沖縄芸能史年表」（戦後篇7・最終巻）
- (e) 「義太夫年表」昭和篇第六巻（令和三年度刊行予定）の刊行準備

③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を行い、その成果については次のとおり刊行等を行い、研究者及び研究機関等に広く頒布する。

- (a) 演芸資料選書・12「御屋舗番組控」第四冊・別冊
- (b) 未翻刻戯曲集第二十七巻
- (c) 正本写合巻集 27・28
- (d) 絵入根本集 1（仮称）

④ 調査研究の成果については、従来の刊行等に加え、データによる提供や文化デジタルライブラリー等による公開を含め、効果的な活用方法を検討する。

- (a) 歌舞伎・文楽公演の演目ごとの上演年表等を web で公開する。

イ 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施する。

① 各館で公開する分野に関する図書・資料を中心に収集及び分類整理を行い、公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供するとともに、図録等の作成、博物館施設等への貸与等を行う。

図書については、開架図書の整備、ホームページにおける蔵書検索機能の提供等、利便性に配慮して、利用促進に努める。

博物資料等については、適切な保存管理に努めるとともに、関係機関等との連携等により、一層の活用を努める。

- (a) 「国立演芸場所蔵 見世物関係資料目録」（仮）の刊行

② 収集した資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実及び各展示施設等における資料等の展示公開を次のとおり行う。

- (a) 図書、錦絵、ブロマイド、公演記録情報（上演情報、公演記録写真、扮装図鑑）のデータベース化
- (b) デジタルコンテンツの充実

- i. Adobe Flash のサポート終了に伴う文化デジタルライブラリー舞台芸術教材コンテンツの非フラッシュ化

ii. 文化デジタルライブラリー舞台芸術教材「文楽編その1・その2」のリニューアル版の製作

iii. 文化デジタルライブラリー目標アクセス件数：530,000件

(c) 収集した資料等の展示公開（別表11）

実施に当たっては、多言語化等来場者の利便性の向上及び広報活動の強化を図る。

(d) 展示図録の刊行

i. 企画展「日本人と自然」図録（能楽堂・再掲）

ii. 特別展「勸進能」図録（能楽堂・再掲）

(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、公演関係者、研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演並びに伝統芸能の研究等に活用する。

イ 伝統芸能の理解促進と普及を図るため、次のとおり普及活動を実施する。

① 伝統芸能に関する公開講座等を別表12のとおり実施する。実施に当たっては、広報活動を十分に行うとともに、適宜参加者へのアンケート調査を行い、内容等の充実に努める。

② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施し、内容に応じてホームページ等で公開する。

③ 公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用に努める。

④ 組踊等沖縄伝統芸能への理解を促進するため、全国の文化施設や学校等における普及活動の充実に努める。

(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 中期計画の方針に従い、新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施する。

① 現代舞台芸術に関する調査を行い、新国立劇場での上演に活用するとともに、調査結果を活用して講演会等を実施する。

② 他劇場等の情報を収集して、公演の充実に活用するとともに、公演プログラム等において公開する。

③ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料等について整理・保存を行い、他の劇場施設等への貸与を行う。

④ 外部の研究機関等と連携して現代舞台芸術に関する調査研究を行い、その成果を展示等で紹介する。

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理を行い、公演関係者、研究者

及び一般の閲覧に供するとともに、他の劇場施設等への貸与を行う。

- ① 情報センターについて、開架図書の整備、ホームページにおける所蔵資料検索サービスの提供等、利便性に配慮して、利用促進に努める。
- ② 図書資料管理システムについて、図書等の情報のデータベース化を行う。
- ③ 所蔵品管理システムについて、寄贈資料や公演関連資料のデータベース化を行う。

ウ 収集した資料等の展示公開を、別表 11のとおり行う。実施に当たっては、舞台美術センター資料館の現状分析を行い、活用方法等、施設の在り方について、引き続き検討する。

また、ホームページで公開している「主催公演記録データベース」の充実に努める。

(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、公演関係者、研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演並びに現代舞台芸術の研究等に活用する。

イ 現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、次のとおり普及活動を実施する。

- ① 現代舞台芸術に関する公開講座等を別表 12のとおり実施する。実施に当たっては、広報活動を十分に行うとともに、適宜参加者へのアンケート調査を行い、内容等の充実に努める。
- ② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施し、内容に応じてホームページ等で公開する。
- ③ 公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用に努める。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を講ずる。

(1) 組織体制の整備・強化

2020年東京大会を契機とする文化プログラムの中核的事業として実施する「日本博」において、我が国の文化芸術の魅力を国内外に戦略的に発信するため、日本博事務局を運営し、引き続き企画立案・広報機能の強化を図る。

諸外国への対応等を充実させるため、総務企画部内に国際渉外を担う部署の設置を検討する。

(2) 給与水準の適正化

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

(3) 契約の適正化

ア 「調達等合理化計画」に基づき契約の適正化を図り、原則として一般競争入札によることとする。

また、その取組状況をホームページで公表する。

イ 契約監視委員会において、定期的に契約の点検を行い、その結果を踏まえた見直しを実施する。

ウ 入札事務の効率化と競争参加者の利便性向上のため、電子入札を一部の案件で実施する。

(4) 共同調達等の取組の推進

ア 共同調達等の取組の推進

法人間又は周辺の他機関と連携し、次の品目について、共同調達を推進する。なお、この他の品目の共同調達の実施については、費用対効果に配慮しつつ検討を行う。

- ① コピー用紙
- ② トイレットペーパー及びペーパータオル

イ 省エネルギー、リサイクルの推進

- ① 特定地球温暖化対策事業所として、地球温暖化対策計画書等を作成し二酸化炭素(CO₂)の削減を推進する。
- ② 夏季軽装等の推進による、事務所部分を中心とした光熱水量の節減を図る。
- ③ 廃棄物の減量化を図るため、両面コピー及び分別収集を徹底する。
- ④ 情報システムの利用促進により、ペーパーレス化を進める。
- ⑤ グリーン購入法に基づく環境配慮物品等の調達を行い省エネルギー、リサイクルを促進する。

(5) 情報システムの活用

ア 業務システムの安定稼動を引き続き図ることにより、各業務の効率的な運用を行う。

イ 情報システムの更新に際し、情報セキュリティの確保を前提に、外部サービスの活用を推進し、システムの最適化を図るとともに業務効率の一層の向上を目指す。

(6) 予算執行の効率化

運営費交付金の会計処理として、引き続き、収益化単位の業務ごとに予算と実績を適切に管理する。

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

- 1 予算 別紙1のとおり
- 2 収支計画 別紙2のとおり
- 3 資金計画 別紙3のとおり

4 保有資産の処分

保有資産については、保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。

IV その他業務運営に関する重要事項

1 その他業務の運営に関する取組

(1) 内部統制の充実・強化

ア 令和元年度の事業の実施結果について、担当各部が自己点検評価を行うとともに、各分野の外部専門家からの意見聴取を行う。

また、上記の自己点検評価をもとに、評議員会に置かれた、外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、業務の実績に関する評価を行う。評価結果については、公表するとともに、組織の改善、事業の見直し、事務の改善等に反映させる。

イ 理事長のリーダーシップの下に業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）を充実するとともに、内部監査、監事監査に係る機能の充実・強化を図る。

ウ 国民が最新の情報を円滑に得られるよう、ホームページにおける情報アクセスを容易にし、情報開示を推進する。情報開示に当たっては、国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底する。より効果的な情報発信に向けてホームページの体裁の検討を開始する。

(2) 情報セキュリティ対策

ア 政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえ、実施手順等関係文書の整備、役職員の研修、自己点検、システム監査を実施し、適切な情報セキュリティの確保を図る。

イ 脆弱性情報を的確に把握し、遅滞なく対応する。ウイルスや不正アクセス等の情報を収集し、役職員に対して積極的に情報提供を行うとともに対応訓練を実施し、組織的対応能力の強化に取り組む。

2 施設及び設備に関する計画

(1) 施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上等のため、長期的な視野に立った整備計画を策定し、別紙4のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。併せて平成28年度に策定した「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画（行動計画）」に基づき、「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画（個別施設計画）」を策定する。また、施設・設備及び舞台設備の機能維持に必要なメンテナンスを実施する。

国立劇場本館・演芸場等隼町地区の施設・設備（以下「国立劇場等」という。）の再整備については、国立劇場再整備に関するプロジェクトチーム（以下「PT」という。）により策定された「国立劇場の再整備に係る整備計画」に基づき、実施方針概略の策定を行う。

なお、国立劇場再整備に向けた検討及び調査研究については、PT、評議員会及び国立劇場再整備懇談会等の意見を踏まえながら、国立劇場再整備推進委員会が中心となって実施する。

- (2) 快適で安全な観劇環境を提供するため、劇場利用者及び外部専門家の意見等を踏まえ、整備内容の検討を行い、可能なものは速やかに実施する。その際、国立劇場等については、今後の再整備計画との関連に留意する。

3 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成する。

イ 次の取組により、事務能率の維持、増進を図る。

- ① 各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、適切な労務管理を実施する。
- ② 国際力を養う海外研修を含め、外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。
- ③ 多様で柔軟な働き方を推進するための制度導入を検討する。

ウ ア及びイの取組の向上を図るため、人材確保・育成方針の策定を検討する。

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。

4 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地元の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う。

また、新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う。

[別表1] 伝統芸能の公開に関する計画

1 歌舞伎

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
10月歌舞伎公演	本館大劇場	10月4日～27日	23回	23日	19,200人
11月歌舞伎公演	〃	11月2日～25日	22回	22日	16,600人
12月歌舞伎公演	〃	12月3日～26日	23回	23日	23,900人
1月歌舞伎公演	〃	1月3日～27日	24回	24日	27,200人
3月歌舞伎公演	〃	3月3日～27日	22回	22日	16,750人
本公演（5公演）小計			114回	114日	103,650人
6月歌舞伎鑑賞教室	本館大劇場	6月2日～21日	40回	20日	49,500人
7月歌舞伎鑑賞教室	〃	7月3日～27日	42回	21日	55,000人
鑑賞教室（2公演）小計			82回	41日	104,500人
歌舞伎（7公演）合計			196回	155日	208,150人

2 文楽

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
5月文楽公演	本館小劇場	5月9日～25日	34回	17日	17,120人
8月文楽特別公演	〃	8月3日～9日	21回	7日	10,400人
9月文楽公演	〃	9月5日～22日	36回	18日	18,120人
12月文楽公演	〃	12月3日～15日	13回	13日	6,990人
2月文楽公演	〃	2月6日～22日	51回	17日	22,080人
12月文楽鑑賞教室	〃	12月3日～15日	25回	13日	12,800人
本館（6公演）小計			180回	85日	87,510人
4月文楽公演「通し狂言義経千本桜」	文楽劇場	4月4日～26日	44回	22日	20,000人
夏休み文楽特別公演	〃	7月18日～7月28日	33回	11日	14,200人
錦秋文楽公演	〃	10月31日～11月23日	46回	23日	19,000人
初春文楽公演	〃	1月3日～24日	42回	21日	20,500人
6月文楽鑑賞教室 「二人三番叟」、 解説「文楽へようこそ」、「夏祭浪花鑑」	〃	6月5日～18日	28回	14日	18,500人
文楽劇場（5公演）小計			193回	91日	92,200人
文楽（11公演）合計			373回	176日	179,710人

3 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
11月舞踊公演	本館小劇場	11月21日	2回	1日	1,000人
3月舞踊公演	〃	3月13日	1回	1日	420人
6月邦楽公演	〃	6月6日	1回	1日	490人
10月邦楽公演	〃	10月17日	1回	1日	540人
1月邦楽公演	〃	1月16日～17日	2回	2日	1,000人
6月雅楽公演	〃	6月20日	1回	1日	420人

2月声明公演	本館大劇場	2月20日	1回	1日	1,130人
9月民俗芸能公演	本館小劇場	9月26日	2回	1日	770人
1月民俗芸能公演	〃	1月23日	1回	1日	420人
2月琉球芸能公演	〃	2月27日	2回	1日	1,080人
4月舞踊・邦楽公演	〃	4月18日	1回	1日	390人
5月特別企画公演	本館大劇場	5月23日～24日	2回	2日	2,090人
8月特別企画公演	〃	8月1日～2日	6回	2日	5,710人
9月特別企画公演	〃	9月5日	1回	1日	400人
10月特別企画公演	本館小劇場	10月23日～25日	6回	3日	3,150人
3月特別企画公演	〃	3月5日～6日	2回	2日	1,000人
本館（16公演）小計			32回	22日	20,010人
10月舞踊公演「東西名流舞踊鑑賞会」	文楽劇場	10月10日	2回	1日	780人
8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」	〃	8月22日	1回	1日	380人
2月特別企画公演「金剛峯寺の声明」	〃	2月13日	1回	1日	680人
5月舞踊・邦楽公演 「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」	〃	5月16日	1回	1日	360人
文楽劇場（4公演）小計			5回	4日	2,200人
舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等（20公演）合計			37回	26日	22,210人

4 大衆芸能

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
定席公演（上席・中席）（22公演）	演芸場	毎月実施 （5月・1月は中席のみ）	217回	217日	33,900人
若手新人公演（花形演芸会）（12公演）	〃	毎月実施	12回	12日	3,370人
新春名人会	〃	1月2日～7日	7回	6日	2,016人
国立名人会（11公演）	〃	毎月実施 （1月を除く）	11回	11日	3,152人
特別企画公演（10公演）	〃	毎月実施 （8.11.1～3月を除く）	19回	17日	4,692人
演芸場（56公演）小計			266回	263日	47,130人
浪曲名人会	文楽劇場	2月27日	1回	1日	650人
浪曲錬声会	文楽劇場 小ホール	5月30日	2回	1日	290人
上方演芸特選会（6公演）	〃	奇数月に実施	24回	24日	3,420人
文楽劇場（8公演）小計			27回	26日	4,360人
大衆芸能（64公演）合計			293回	289日	51,490人

5 能楽 劇場：能楽堂

区分	公演名	期間	回数	日数	目標 入場者数
定例公演	月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 狂言「土筆」、能「熊野 村雨留」	4月8日	1回	1日	580人
	月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 狂言「栗焼」、能「小督」	4月17日	1回	1日	580人
	月間特集 日本人と自然 草木成仏 狂言「蝸牛」、能「西行桜 比多杖之伝」	5月15日	1回	1日	580人
	月間特集 日本人と自然 草木成仏 狂言「横座」、能「六浦」	5月27日	1回	1日	580人

	月間特集 日本人と自然 花鳥風月 狂言「花盗人」、能「吉野天人 天人揃」	6月3日	1回	1日	580人
	月間特集 日本人と自然 花鳥風月 狂言「箕被」、能「松風」	6月19日	1回	1日	580人
	狂言「瓜盗人」、能「水室 白頭」	7月8日	1回	1日	580人
	狂言「菊の花」、能「天鼓」	9月18日	1回	1日	580人
	狂言「金藤左衛門」、能「江口」	10月7日	1回	1日	580人
	演出の様々な形 狂言「引括」、能「船弁慶 船中之語」	10月16日	1回	1日	580人
	狂言「若市」、能「龍田」	11月4日	1回	1日	580人
	演出の様々な形 狂言「延命袋」、能「船弁慶 重キ前後之替・名所教」	11月20日	1回	1日	580人
	月間特集 所縁の能・狂言一勸進能一 ＜糺河原勸進猿楽＞ 狂言「伊文字」、能「実盛」	12月1日	1回	1日	580人
	月間特集 所縁の能・狂言一勸進能一 ＜寛延勸進能＞ 狂言「悪坊」、能「邯鄲 盤渉」	12月18日	1回	1日	580人
	素謡「神歌」、能「弓八幡」、狂言「靱猿」	1月6日	1回	1日	580人
	狂言「松囃子」、能「弱法師」	1月15日	1回	1日	580人
	月間特集 絵画と能・狂言 狂言「粟田口」、能「杜若」	2月3日	1回	1日	580人
	月間特集 絵画と能・狂言 狂言「塗附」、能「砧」	2月19日	1回	1日	580人
	狂言「折紙聲」、復曲能「吉野静 前入」	3月3日	1回	1日	580人
	狂言「蜘蛛盗人」、能「景清」	3月19日	1回	1日	580人
定例公演（20公演）小計			20回	20日	11,600人
普及公演	月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 解説、狂言「水掛聲」、能「夕顔」	4月11日	1回	1日	610人
	月間特集 日本人と自然 草木成仏 解説、狂言「茸」、能「藤」	5月9日	1回	1日	610人
	月間特集 日本人と自然 花鳥風月 解説、狂言「千鳥」、能「善知鳥」	6月13日	1回	1日	610人
	解説、狂言「神鳴」、能「隅田川」	7月11日	1回	1日	610人
	解説、狂言「太刀奪」、能「花筐」	9月12日	1回	1日	610人
	解説、狂言「二九十八」、能「阿漕」	10月10日	1回	1日	610人
	解説、狂言「樋の酒」、能「俊寛」	11月14日	1回	1日	610人
	月間特集 所縁の能・狂言一勸進能一 ＜粟田口勸進猿楽＞ 解説、狂言「猿聲」、能「舍利」	12月12日	1回	1日	610人
	解説、狂言「昆布売」、能「雲林院」	1月9日	1回	1日	610人
	月間特集 絵画と能・狂言 解説、狂言「仁王」、能「通小町 雨夜之伝」	2月27日	1回	1日	610人
	解説、狂言「墨塗」、能「巴」	3月13日	1回	1日	610人
普及公演（11公演）小計			11回	11日	6,710人
企画公演	月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 【企画公演】日本人と自然 狂言「木六駄」、復曲能「泰山木」	4月24日	1回	1日	590人
	月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 【企画公演】女性能楽師による 仕舞「忠度」「野宮」「山姥 クセ」、能「葛城」	4月29日	1回	1日	590人
	月間特集 日本人と自然 草木成仏 【狂言企画公演】日本人と自然 狂言「梟」、狂言「蟬」、狂言「鮎」	5月22日	2回	1日	1,180人

	月間特集 日本人と自然 草木成仏 【特別公演】 能「半節 立花」、狂言「蚊相撲」、能「鷺」	5月30日	1回	1日	590人
	【企画公演】親子で楽しむ能の会 おはなし、能「小鍛冶」	8月8日	1回	1日	590人
	【企画公演】親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「鷹磔」、狂言「腰折」	8月29日	1回	1日	590人
	【企画公演】素の魅力 脇語「摂待」、仕舞「遊行柳 キリ」、袴能「忠度」	9月25日	1回	1日	590人
	【企画公演】蠟燭の灯りによる 謡講、能「鉄輪」	10月22日	1回	1日	590人
	【企画公演】釈迦と閻魔 未定、狂言「朝比奈」	11月28日	1回	1日	590人
	【企画公演】釈迦と閻魔 未定、能「大会」	11月29日	1回	1日	590人
	月間特集 所縁の能・狂言一勸進能一 【企画公演】所縁の能・狂言<弘化勸進能> 狂言「米市」、能「鞍馬天狗 天狗揃」	12月26日	1回	1日	590人
	【狂言の会】 狂言「餅酒」、狂言「泣尼」、狂言「牛盗人」	1月22日	1回	1日	590人
	【特別公演】 能「誓願寺」、狂言「節分」、能「大仏供養」	1月30日	1回	1日	590人
	【企画公演】復興と文化 新作狂言「維盛」、復曲能「名取ノ老女」	3月26日	1回	1日	590人
企画公演（14公演）小計			15回	14日	8,850人
鑑賞教室 等	【能楽鑑賞教室】 解説、狂言「寝音曲」、能「殺生石」	6月22日～26日	10回	5日	6,050人
	【国立能楽堂ショーケース】 解説、狂言「萩大名」、能「猩々」	7月20日～21日	2回	2日	1,160人
	【国立能楽堂ショーケース】 解説、狂言「棒縛」、能「土蜘蛛」	7月22日～23日	2回	2日	1,160人
	【国立能楽堂ショーケース】 解説、狂言「附子」、能「羽衣」	7月25日～26日	2回	2日	1,160人
	【国立能楽堂ショーケース】 解説、狂言「盆山」、能「清経」	8月26日～27日	2回	2日	1,160人
	【国立能楽堂ショーケース】 解説、狂言「仏師」、能「安達原」	9月2日～3日	2回	2日	1,160人
	【企画公演】手話狂言 おはなし、狂言「佐渡狐」「清水」「六地藏」	9月5日	1回	1日	345人
	【外国人のための能楽鑑賞教室】 解説、狂言「柿山伏」、能「紅葉狩 鬼揃」	10月31日	1回	1日	580人
鑑賞教室（8公演）小計			22回	17日	12,775人
能楽（53公演）合計			68回	62日	39,935人

6 組踊等沖縄伝統芸能

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
定期公演	琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」	国立劇場おきなわ 大劇場	4月11日	1回	1日	466人
	組踊「賢母三遷の巻」	〃	4月25日	1回	1日	349人
	三線音楽「古典音楽の美」	〃	5月16日	1回	1日	401人
	琉球舞踊「男性舞踊家の会」	〃	6月13日	1回	1日	497人
	沖縄芝居「武士松茂良と平安山次良」	〃	6月27日～28日	2回	2日	800人
	組踊「久志の若按司」	〃	7月18日	1回	1日	349人
	琉球舞踊「月の美しや～美ら島の息吹～」	〃	8月29日	1回	1日	466人
	組踊「北山敵討」	〃	9月26日	1回	1日	349人
	南風原町の民俗芸能「ふえーばる村踊り」	〃	10月18日	1回	1日	401人
	組踊「伊祖の子」	〃	12月12日	1回	1日	349人
	琉球舞踊「男性舞踊家の会」	〃	12月19日	1回	1日	497人

	琉球舞踊「琉球舞踊特選会」	〃	1月16日～17日	2回	2日	870人
	組踊「矢蔵の比屋」	〃	1月30日	1回	1日	349人
	三線音楽「唄方」	〃	2月6日	1回	1日	401人
	沖縄芝居「チャー木の精」	〃	2月13日～14日	2回	2日	771人
	組踊「手水の縁」	〃	3月13日	1回	1日	349人
	琉球舞踊「歌舞集」	〃	3月20日	1回	1日	466人
定期公演（17公演）小計				20回	20日	8,130人
企画公演	千本ゑんま堂狂言	国立劇場おきなわ 大劇場	6月7日	1回	1日	432人
	琉球講談	国立劇場おきなわ 小劇場	7月11日	1回	1日	174人
	ゆらていく遊ば	国立劇場おきなわ 大劇場	10月3日	1回	1日	423人
	アジア・太平洋地域の芸能	〃	11月8日	1回	1日	401人
	国立劇場寄席	〃	11月14日	1回	1日	497人
	創作舞踊と新作組踊	〃	3月27日	1回	1日	401人
企画公演（6公演）小計				6回	6日	2,328人
研究公演	琉狂言	国立劇場おきなわ 大劇場	5月23日	1回	1日	366人
研究公演（1公演）小計				1回	1日	366人
普及公演	琉球舞踊鑑賞教室	国立劇場おきなわ 大劇場	8月8日	1回	1日	395人
	親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」	〃	8月15日	2回	1日	751人
	沖縄芝居鑑賞教室	〃	9月17日～19日	3回	3日	1,262人
	組踊鑑賞教室「執心鐘入」	〃	10月31日	1回	1日	405人
	組踊鑑賞教室「二童敵討」	〃	11月18日～20日	6回	3日	2,601人
	はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 「二童敵討」	〃	11月21日	1回	1日	394人
普及公演（6公演）小計				14回	10日	5,808人
組踊等沖縄伝統芸能（30公演）合計				41回	37日	16,632人
伝統芸能分野（185公演）合計				1,008回	745日	518,127人

[別表2] 現代舞台芸術の公演に関する計画

1 オペラ

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
「ジュリオ・チェーザレ」(新制作)	新国立劇場 オペラ劇場	4月7日～12日	3回	3日	4,700人
「ホフマン物語」	〃	4月19日～25日	4回	4日	4,600人
「サロメ」	〃	5月17日～26日	4回	4日	5,200人
「ニュルンベルクのマイスタージンガー」(新制作)	〃	6月21日～30日	4回	4日	6,300人
「夏の夜の夢」(新制作)	〃	10月4日～12日	5回	5日	7,000人
「アルマゲドンの夢」(創作委嘱作品・新制作)	〃	11月15日～23日	4回	4日	5,700人
「こうもり」	〃	11月29日～12月6日	5回	5日	7,500人
「トスカ」	〃	1月23日～2月3日	5回	5日	7,900人
「フィガロの結婚」	〃	2月7日～14日	4回	4日	5,600人
「ワルキューレ」	〃	3月11日～23日	5回	5日	8,000人
子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ 「Super Angels スーパーエンジェル」(新制作)	〃	8月22日～23日	2回	2日	2,000人
高校生のためのオペラ鑑賞教室 2020「夕鶴」	〃	7月9日～15日	6回	6日	8,500人
オペラ(12公演)合計			51回	51日	73,000人

2 バレエ

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
「ドン・キホーテ」	新国立劇場 オペラ劇場	5月2日～10日	6回	6日	9,000人
「不思議の国のアリス」	〃	6月5日～14日	10回	8日	15,900人
「白鳥の湖」(新制作)	〃	10月23日～11月1日	9回	7日	13,000人
「くるみ割り人形」	〃	12月12日～20日	9回	5日	14,900人
ニューイヤール・バレエ	〃	1月9日～11日	3回	3日	4,200人
吉田都セレクション	〃	2月20日～23日	3回	3日	4,200人
こどものためのバレエ劇場 2020「竜宮 りゅうぐう」 (新制作)	〃	7月25日～28日	8回	4日	9,000人
バレエ(7公演)合計			48回	36日	70,200人

3 現代舞踊

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
小野寺修二 カンパニーデラシネラ 「ふしぎの国のアリス」	新国立劇場 小劇場	6月20日～28日	5回	5日	1,300人
中村恩恵×首藤康之×新国立劇場バレエ団 「Shakespeare THE SONNETS」	新国立劇場 中劇場	11月28日～29日	2回	2日	1,200人
ダンス・コンサート「舞姫と牧神達の午後2021」	新国立劇場 小劇場	3月26日～28日	4回	3日	1,000人
現代舞踊(3公演)合計			11回	10日	3,500人

4 演劇

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
フルオーディション2 「反応工程」	新国立劇場 小劇場	4月9日～26日	16回	16日	3,600人
「ガールズ&ボーイズ -Girls & Boys-」(日本初演)	〃	5月12日～31日	23回	18日	6,800人

こどももおとなも楽しめる企画 「願いがかなうぐつぐつカクテル」(日本初演)	〃	7月4日～26日	20回	17日	4,600人
こどももおとなも楽しめる企画 「イヌビト～犬人～」(新作)	新国立劇場 中劇場	8月5日～16日	15回	11日	7,300人
海外招聘公演 「ガラスの動物園」	〃	9月11日～14日	4回	4日	3,400人
「リチャード二世」	〃	10月3日～25日	22回	21日	15,500人
こどももおとなも楽しめる企画 「ピーター&ザ・スターキャッチャー」(日本初演)	新国立劇場 小劇場	12月10日～27日	22回	18日	5,500人
演劇(7公演)合計			122回	105日	46,700人

※他に、将来の上演に向け作品作りを行うディベロップメント企画「こつこつプロジェクト」、英国ロイヤルコート劇場と連携した劇作家ワークショップ、過去に上演した7作品を小劇場で上映する特別企画「シェイクスピア歴史劇シリーズ映像上映」を実施。

現代舞台芸術分野(29公演)合計	232回	202日	193,400人
------------------	------	------	----------

[別表3] 主に青少年を対象とした公演に関する計画(再掲)

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室	本館大劇場	6月2日～21日	40回	20日	49,500人
〃	7月歌舞伎鑑賞教室	〃	7月3日～27日	42回	21日	55,000人
文楽	12月文楽鑑賞教室	本館小劇場	12月3日～15日	25回	13日	12,800人
〃	6月文楽鑑賞教室 「二人三番叟」、解説「文楽へようこそ」、「夏祭浪花鑑」	文楽劇場	6月5日～18日	28回	14日	18,500人
能楽	6月能楽鑑賞教室 解説、狂言「寝音曲」、能「殺生石」	能楽堂	6月22日～26日	10回	5日	6,050人
組踊等	沖縄芝居鑑賞教室	国立劇場おきなわ 大劇場	9月17日～19日	3回	3日	1,262人
〃	組踊鑑賞教室「二童敵討」	〃	11月18日～20日	6回	3日	2,601人
伝統芸能分野(7公演)合計				154回	79日	145,713人
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2020 「夕鶴」	新国立劇場 オペラ劇場	7月9日～15日	6回	6日	8,500人
〃	子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ 「Super Angels スーパーエンジェル」(新制作)	〃	8月22日～23日	2回	2日	2,000人
バレエ	こどものためのバレエ劇場 2020 「竜宮 りゅうぐう」(新制作)	〃	7月25日～28日	8回	4日	9,000人
現代舞踊	小野寺修二 カンパニーデラシネラ 「ふしぎの国のアリス」	新国立劇場 小劇場	6月20日～28日	5回	5日	1,300人
演劇	こどももおとなも楽しめる企画 「願いがかんうぐつぐつカクテル」(日本初演)	〃	7月4日～26日	20回	17日	4,600人
〃	こどももおとなも楽しめる企画 「イヌビト～犬人～」(新作)	新国立劇場 中劇場	8月5日～16日	15回	11日	7,300人
〃	こどももおとなも楽しめる企画 「ピーター&ザ・スターキャッチャー」 (日本初演)	新国立劇場 小劇場	12月10日～27日	22回	18日	5,500人
現代舞台芸術分野(7公演)合計				78回	45日	38,200人

※ すべて別表1及び別表2の公演の中で実施するものである。

[別表4] 社会人・親子等を対象とした入門企画・公演に関する計画(再掲)

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	本館大劇場	6月5日・12日	2回	2日
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	〃	7月10日	1回	1日
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」	〃	7月22日～27日	8回	6日
文楽	8月文楽特別公演「親子劇場」	本館小劇場	8月3日～9日	7回	7日
〃	12月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞教室」	〃	12月4日・11日	2回	2日
〃	6月文楽鑑賞教室 「大人のための文楽入門」	文楽劇場	6月14日	2回	1日
〃	夏休み文楽特別公演(第一部親子劇場)	〃	7月18日～7月28日	11回	11日
特別企画	9月特別企画公演	本館大劇場	9月5日	1回	1日
琉球芸能	2月琉球芸能公演	本館小劇場	2月27日	2回	1日
大衆芸能	【特別企画公演】親子で楽しむ演芸会	演芸場	7月26日	1回	1日
能楽	【企画公演】夏休み親子で楽しむ能の会	能楽堂	8月8日	1回	1日
〃	【企画公演】夏休み親子で楽しむ狂言の会	〃	8月29日	1回	1日
組踊等	琉球舞踊鑑賞教室	国立劇場おきなわ 大劇場	8月8日	1回	1日
〃	親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」	〃	8月15日	2回	1日
〃	組踊鑑賞教室「執心鐘入」	〃	10月31日	1回	1日

※ すべて別表1の公演の中で実施するものである。

[別表5] 外国人を対象とした入門企画・公演に関する計画(再掲)

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数
歌舞伎	7月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI －外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」	本館大劇場	7月24日～27日	4回	4日
文楽	8月文楽特別公演「Discover BUNRAKU －外国人のための文楽鑑賞教室－」	本館小劇場	8月3日～9日	7回	7日
〃	12月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU －外国人のための文楽鑑賞教室－」	〃	12月14日	1回	1日
〃	6月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU －BUNRAKU for Beginners－」	文楽劇場	6月13日	1回	1日
〃	夏休み文楽特別公演「Discover BUNRAKU －BUNRAKU for Beginners－」(第二部)	文楽劇場	7月18日～28日	11回	11日
能楽	外国人のための能楽鑑賞教室 「Discover NOH & KYOGEN」	能楽堂	10月31日	1回	1日
組踊等	親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」	国立劇場おきなわ 大劇場	8月15日	2回	1日
〃	はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 「二童敵討」	〃	11月21日	1回	1日

※ すべて別表1の公演の中で実施するものである。

[別表6] 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力に関する計画

区分	公演名	劇場	期間	回数	連携協力先等
共催	5月特別企画公演	本館大劇場	5月23日～24日	2回	(公財)東京都歴史文化財団 他
〃	8月特別企画公演	〃	8月1日～2日	6回	(公財)東京都歴史文化財団 他
〃	沖縄県伝統芸能公演	国立劇場おきなわ 小劇場	7～3月	14～19回 予定	(公財)沖縄県文化振興会
〃	新春組踊大公演	国立劇場おきなわ 大劇場	1月	1回程度	(一社)伝統組踊保存会
〃	国立劇場おきなわ県外公演	京都芸術劇場春秋 座	11月29日	1回	京都造形芸術大学舞台芸術研究センター
〃	親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」	国立劇場おきなわ 大劇場	8月15日	2回	(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
伝統芸能分野 合計 6 公演					
共催	地域招聘公演 びわ湖ホール オペラ「竹取物語」	新国立劇場 中劇場	7月11日～12日	2回	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
〃	東京二期会オペラ劇場公演「フィデリオ」	新国立劇場 オペラ劇場	9月3日～6日	4回	(公財)東京二期会 (公財)日本オペラ振興会
〃	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2020 「魔笛」	ロームシアター 京都 メインホール	10月27日～28日	2回	京都市、(公財)京都市音楽芸術文化振興財団
提携	オペラ 「ニルンベルクのマイスタージンガー」	東京文化会館 大ホール	6月14日～17日	2回	ザルツブルク・イースター音楽祭、ザクセン州立歌劇場、(公財)東京都歴史文化財団
〃	〃	兵庫県立芸術文化センターKOBELCO 大ホール	7月5日	1回	兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
現代舞台芸術分野 合計 5 公演					

[別表7] 全国各地の文化施設等における公演に関する計画

区分	公演名	劇場	期間	回数	連携協力先等
共催	6月歌舞伎鑑賞教室静岡公演	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	6月23日	2回	(公財)静岡県文化財団、 静岡県、他
"	6月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演	神奈川県立 青少年センター	6月25日～26日	4回	かながわ伝統芸能祭 実行委員会
"	国立劇場おきなわ県外公演	京都芸術劇場 春秋座	11月29日	1回	京都造形芸術大学舞台芸術 研究センター
伝統芸能分野 合計 2 公演					
受託	バレエ「白鳥の湖」	やまぎん県民ホール (山形県総合文化芸術館) 大ホール	4月4日	1回	山形県総合文化芸術館 オープニング事業等実行 委員会
提携	オペラ 「ニュルンベルクのマイスタージンガー」	東京文化会館 大ホール	6月14日～17日	2回	(公財)東京都歴史文化 財団
"	オペラ 「ニュルンベルクのマイスタージンガー」	兵庫県立芸術文化 センターKOBELCO 大ホール	7月5日	1回	兵庫県、兵庫県立芸術 文化センター
受託	演劇 「ガールズ&ボーイズ -Girls & Boys-」	穂の国とよはし 芸術劇場PLAT 主ホール	6月3日～4日	2回	豊橋市、(公財)豊橋文化 振興財団
"	演劇 「ガールズ&ボーイズ -Girls & Boys-」	滋賀県立劇場 びわ湖ホール 中ホール	6月7日	1回	滋賀県、 (公財)びわ湖芸術文化 財団
"	演劇 「ガールズ&ボーイズ -Girls & Boys-」	いわき芸術文化 交流館アリオス 中劇場	6月11日	2回	いわき市
"	バレエ「不思議の国のアリス」	愛知県立芸術劇場 大ホール	6月20日～21日	2回	愛知県芸術劇場
"	バレエ「不思議の国のアリス」	高崎芸術劇場 大劇場	6月27日～28日	2回	(公財)高崎財団
"	小野寺修二 カンパニーデラシネラ ダンス「ふしぎの国のアリス」	いわき芸術文化 交流館アリオス 中劇場	7月4日	1回	いわき市
"	小野寺修二 カンパニーデラシネラ ダンス「ふしぎの国のアリス」	水戸芸術館 ACM劇場	7月11日～12日	未定	(公財)水戸市芸術振興 財団
"	演劇「願いのかなうぐつぐつカクテル」	米子市淀江 文化センター さなめホール	8月2日	1回	(公財)鳥取県文化振興 財団
"	こどものためのバレエ劇場 2020 バレエ「竜宮 りゅうぐう」	アルカスSASEBO 大ホール	9月18日	1回	(公財)佐世保地域文化事 業財団
"	こどものためのバレエ劇場 2020 バレエ「竜宮 りゅうぐう」	オーバード・ ホール	9月21日	1回	(公財)富山市民文化事 業団
共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2020 「魔笛」	ロームシアター京 都 大ホール	10月27日～28日	2回	京都市、(公財)京都市音 楽芸術文化振興財団
受託	バレエ「眠れる森の美女」	札幌文化芸術劇場 hitaru	11月14日～15日	2回	(公財)札幌市芸術文化 財団
"	オペラ「こうもり」	"	12月13日～15日	2回	(公財)札幌市芸術文化 財団
"	演劇 「ピーター&ザ・スターキャッチャー」	兵庫県立 芸術文化センター 阪急 中ホール	1月9日～10日	未定	兵庫県、兵庫県立芸術 文化センター
"	演劇 「ピーター&ザ・スターキャッチャー」	穂の国とよはし 芸術劇場PLAT 主ホール	1月17日	未定	豊橋市、(公財)豊橋文化 振興財団
"	演劇 「ピーター&ザ・スターキャッチャー」	北九州芸術劇場 中ホール	1月23日～24日	未定	(公財)北九州市芸術 文化振興財団
"	演劇 「ピーター&ザ・スターキャッチャー」	水戸芸術館 ACM劇場	1月30日～31日	2回	(公財)水戸市芸術振興 財団
現代舞台芸術分野 合計 20 公演					

[別表8] 国際文化交流公演等に関する計画

公演等名称	実施場所	期間	回数	連携協力先等
7月歌舞伎鑑賞教室 「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」	本館大劇場	7月24日～27日	4回	
8月文楽特別公演 「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」	本館小劇場	8月3日～9日	7回	
12月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」	〃	12月14日	1回	
5月特別企画公演	本館大劇場	5月23日～24日	2回	(公財)東京都歴史文化財団他
10月特別企画公演	本館小劇場	10月23日～25日	6回	
6月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU－BUNRAKU for Beginners－」	文楽劇場	6月13日	1回	
外国人のための能楽鑑賞教室 「Discover NOH & KYOGEN」	能楽堂	10月31日	1回	
親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」	国立劇場おきなわ 大劇場	8月15日	2回	
アジア・太平洋地域の芸能	〃	11月8日	1回	文化庁芸術祭執行委員会
はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 「二童敵討」	〃	11月21日	1回	沖縄県、他
伝統芸能分野 合計 10 公演				
バレエ「不思議の国のアリス」	新国立劇場 オペラ劇場	6月5日～14日	10回	オーストラリア・バレエ
オペラ「ニュルンベルクのマイスタージンガー」	〃	6月21日～30日	4回	ザルツブルク・イースター音楽祭、ザクセン州立歌劇場、(公財)東京都歴史文化財団
海外招聘公演 演劇「ガラスの動物園」	新国立劇場 中劇場	9月11日～14日	4回	オデオン劇場
バレエ研修所 バレエ・アステラス・スペシャル2020 「世界バレエ学校フェスティバル&アステラス・ガラ」 (仮)	新国立劇場 オペラ劇場	9月12日～13日	2回	海外バレエ学校
ロイヤルコート劇場×新国立劇場 劇作家ワークショップ 演劇「ロンドン・リーディング公演」	ロイヤルコート劇場	12月	未定	ロイヤルコート劇場
現代舞台芸術分野 合計 5 公演				

[別表9] 日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業（主催・共催型プロジェクト）

No.	プロジェクト名	組織・団体名	開催時期
1	隈研吾展 先端技術を用いた映像による建物および被災地の紹介と共生社会型の都市への提案（仮称）	(独) 国立美術館	元年7月～3年6月
2	アイヌ文化魅力発信プロジェクト ～ アイヌが歩む。アイヌと歩む。～（仮称）	文化庁企画調整課 (国立アイヌ民族博物館設立準備室)	元年9月～2年10月
3	ユネスコ無形文化遺産 特別展「体感！日本の伝統芸能－歌舞伎・文楽・能・雅楽・組踊の世界－」	(独) 日本芸術文化振興会	3月～5月
4	「時空を超える日本のアート－古典×現代2020」 （仮称）	(独) 国立美術館	3月～6月
5	特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」	(独) 国立文化財機構	3月～5月
6	特別展「和食」（仮称）及び関連プロジェクト	株式会社朝日新聞社 (独) 国立科学博物館との共同事業)	3月～6月
7	東京2020大会・日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル	障害者の文化芸術国際交流事業実行委員会 (厚生労働省：連携)	4月～3月
8	特別展「きもの KIMONO - 自然を映す色と模様の世界」	(独) 国立文化財機構	4月～6月
9	日本の自然と書の心「日本の書200人選～東京2020大会の開催を記念して～」	東京2020オリンピック・パラリンピック記念書展実行委員会	4月～5月
10	新・視聴体感芸術〈NOVA〉の創造・上演による日本の舞台芸術における創造力・連携力・誘客力向上プロジェクト	株式会社北前船	4月～9月
11	特別展「京の国宝－守り伝える日本のたから－」	(独) 日本芸術文化振興会 (文化庁との連携)	4月～6月
12	「神宮の杜芸術祝祭 祭る。祈る。創る。－持続可能な自然と芸術文化－	神宮の杜芸術祝祭実行委員会 一般社団法人アートパワーズジャパン	4月～3月
13	日本書紀・藤原不比等を巡る奈良県博覧プロジェクト	奈良県	4月～3月
14	障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクト	ビッグ・アイ協働機構（国際障害者交流センター）	4月～3月
15	日本の文化、伝統に出会う（仮題）	一般社団法人 国際児童青少年舞台芸術協会日本センター	5月
16	寄席「笑楽座」2020	公益社団法人 落語芸術協会	5月～2月
17	森口邦彦 友禅／デザイン 交差する自由へのまなざし	(独) 国立美術館	5月～7月
18	神々の集う国「出雲」体験フェスタ ～日本博in出雲～（仮称）	出雲市役所	5月～9月
19	文産官プラットフォームによるファッション文化創造プロジェクト（連携：経済産業省）	一般社団法人 日本ファッション・ウィーク推進機構	5月～8月
20	日本遺産を活かした伝統芸能ライブ「NOBODY KNOWS」プロジェクト	公益財団法人 日本芸能実演家団体協議会	5月～3月
21	国際芸術祭BIWAKOビエンナーレ2020 “森羅万象～COSMIC DANCE “	国際芸術祭BIWAKOビエンナーレ実行委員会	6月～11月
22	ショートショートフィルムフェスティバル & アジア 2020	株式会社パシフィックボイス	6月～10月
23	「伝統芸能」にみる「日本人と自然」	(独) 日本芸術文化振興会	6月～3月
24	文楽・世界への発信と国際交流	(独) 日本芸術文化振興会	6月～12月
25	我が国の美術工芸品等修理の技と自然の原材料を活かした伝承・活用事業 - 国宝重要文化財（美術工芸品）保存修理成果の現地公開 -	株式会社近畿日本ツーリストコーポレートビジネス ※文化財第一課	6月～2月
26	特別展 「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」	(独) 国立文化財機構	6月～8月
27	「日本博 × CLUB RED（仮称）」	株式会社エヌケービー	6月～3月
28	「丹下健三と日本の近現代建築」展に伴う海外発信とレガシー創成	文化庁文化財第二課 国立近現代建築資料館	7月～10月
29	「MANGA 都市 TOKYO ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム・特撮2020」	(独) 国立美術館	7月～1月
30	国立工芸館石川移転記念展「工の芸術－素材・わざ・風土」（仮称）	(独) 国立美術館	7月～9月
31	創生神楽2020「アチマリカム ～Back to THE BEGINNING～」 (仮)	一般社団法人 日本文化伝統産業近代化促進協議会	7月～9月
32	Discover 伝統芸能 - 歌舞伎・能・狂言・文楽・日本舞踊・寄席・雅楽で「おもてなし」 -	(独) 日本芸術文化振興会	7月～9月
33	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 安全祈願流鏝馬	公益社団法人 大日本弓馬会	7月
34	親と子のギャラリー まるごと体験！日本の文化 ※昨年の「よろい」の拡充事業	(独) 国立文化財機構	7月～9月

35	開館15周年特別展覧会「海幸山幸」関連企画 特別公開「木喰作阿弥陀如来坐像」(仮称)および特別公開「宮内庁三の丸尚蔵館所蔵主基屏風」(仮称)	(独)国立文化財機構	7月～9月
36	特別展「あるがままのアート-人知れず表現し続ける者たち-」2019-2020プロジェクト ～美術・教育、公共メディア、福祉・共生社会の分野連携による文化レガシー創出～	国立大学法人 東京芸術大学	7月～9月
37	「観客村」連携特別展示 陶板芸術「風雷神神図屏風」で魅せる日本の美	株式会社読売新聞東京本社	7月～9月
38	世界初演・新作バレエ公演 「竜宮 りゅうぐう」～亀の姫と季(とき)の庭～	公益財団法人 新国立劇場運営財団	7月
39	東京2020オリンピック・パラリンピック能楽祭	公益社団法人 能楽協会	7月～9月
40	企画展「国立公園 -その自然には物語がある-」連携事業	株式会社日本国際放送(環境省および(独)国立科学博物館との共同事業)	7月～10月
41	企画展「国立公園 -その自然には物語がある-」	(独)国立科学博物館	7月～10月
42	ピクチャレスク・ジャパン 世界が見た明治・大正の日本(仮称)	(独)国立美術館国立映画アーカイブ	7月～2月
43	もう一つのお伊勢まいり「伊勢西国三十三所観音巡礼」を世界へ(仮称)	伊勢西国三十三所霊場会	7月～
44	翁プロジェクト —能楽の原点から日本を探る—	翁プロジェクト実行委員会	2年7月～ 3年9月
45	「響きあう、人・海・芸術～せとうち交響」プロジェクト 英語名: Setouchi Symphony	せとうちパレット日本博実行委員会	7月～3月
46	琉球王朝の美～組踊、その継承と発信～	公益財団法人 国立劇場おきなわ運営財団	8月～3月
47	子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ「Super Angels スーパーエンジェル」	公益財団法人 新国立劇場運営財団	8月
48	和の音色を継いで未来へ	公益社団法人 日本三曲協会	8月～9月
49	「神宿る島」国際文化芸術プロジェクト	宗像国際環境会議実行委員会	8月～2月
50	「未来縄文の杜」(仮称)	長岡市	8月～2月
51	「ファッション イン ジャパン 1945-2020 流行と社会」	島根県 ※国立新美術館の巡回展	9月～11月
52	ウテカンパ フェスティバル ～未来に向かって、手をつなごう～	文化庁企画調整課	9月～12月
53	「工芸2020-自然と美のかたち-」	(独)日本芸術文化振興会 (文化庁との連携)	10月～11月
54	特別展「縄文 —東京の縄文人、一万年の暮らし—(仮称)」	公益財団法人 東京都歴史文化財団	10月～12月
55	きのこ・カビ・酒～日本の自然と人が育んだ食文化	(独)国立科学博物館	10月～11月
56	日本の近代化遺産 ～自然の力と美を引き出す技～(仮称)	全国近代化遺産活用連絡協議会 ※文化庁文化資源活用課	10月～11月
57	「伝統の名匠展2020～自然とともにある日本の文化財修理の技～」(仮称)	株式会社NHKプロモーション (文化庁との連携)※文化財第一課	10月～2月
58	日本のたてももの-自然素材を伝統技術に活かす知恵	文化庁文化財第二課 国立近代建築資料館	11月～2月
59	「日本博」皇居外苑特別公演(仮称)	(独)日本芸術文化振興会 (環境省と連携)	12月
60	特別展「ジパング 世界と出会った日本の美」	(独)国立文化財機構	1月～3月
61	「日本美術の魅力(在外古美術品保存修復協力事業による修復作品里帰り展)」	(独)国立文化財機構	1月～3月
62	みやぎきの神楽 魅力発信強化プロジェクト	宮城県	1月～2月
63	特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」	(独)国立文化財機構	2月～3月
64	日本文学展 2020 -文学とメディアの千年譚- 源氏物語絵巻『夕顔の死』里帰り展	凸版印刷株式会社	2月～3月

[別表10] 研修発表会等に関する計画

※国立劇場各館で実施する伝統芸能分野の研修発表会及び既成者研修については「伝承者養成事業50周年記念事業」として実施する。

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽 大衆芸能	第24期歌舞伎俳優研修修了発表会、第25期歌舞伎俳優・第24期歌舞伎音楽(竹本)・第17期歌舞伎音楽(鳴物)・第8期歌舞伎音楽(長唄)・第16期大衆芸能(寄席囃子)研修発表会(合同)	本館小劇場	3月9日	1回	1日
能楽	第22回青翔会	能楽堂	6月9日	1回	1日
〃	第23回青翔会	〃	10月13日	1回	1日
〃	第24回青翔会	〃	3月9日	1回	1日
〃	東西合同研究発表会	京都観世会館	8月25日	1回	1日
文楽	第29期文楽研修修了発表会	文楽劇場	1月26日	1回	1日
組踊	第6期組踊研修生第1回研修発表会	国立劇場おきなわ大劇場	10月8日	1回	1日
〃	第6期組踊研修生第2回研修発表会	〃	3月4日	1回	1日
伝統芸能分野 研修発表会 (8公演) 合計				8回	8日
歌舞伎俳優 既成者	稚魚の会・歌舞伎会合同公演	本館小劇場	8月15日～19日	5回	5日
〃	上方歌舞伎会	文楽劇場	8月7日～8日	4回	2日
歌舞伎音楽 既成者	音の会	本館小劇場	8月22日～23日	2回	2日
能楽既成者	第30回能楽若手研究会 京都公演 若手能	京都観世会館	6月27日	1回	1日
〃	第30回能楽若手研究会 大阪公演 若手能	大槻能楽堂	1月31日	1回	1日
〃	第30回能楽若手研究会 東京公演 若手能	能楽堂	2月6日	1回	1日
文楽既成者	文楽若手会	文楽劇場	6月20日～21日	2回	2日
〃	文楽若手会	本館小劇場	6月27日～28日	2回	2日
〃	若手素浄瑠璃の会	文楽劇場小ホール	8月28日	1回	1日
〃	若手素浄瑠璃の会	〃	2月26日	1回	1日
組踊既成者	第10回若手伝承者公演	国立劇場おきなわ大劇場	11月28日	1回	1日
伝統芸能分野 既成者研修 (11公演) 合計				21回	19日
オペラ	試演会	新国立劇場小劇場	8月9日～10日	2回	2日
〃	歌唱コンサート	新国立劇場中劇場	12月22日	1回	1日
〃	修了公演	〃	3月5日～7日	3回	3日
バレエ	バレエ研修所 バレエ・アステラス・スペシャル2020 「世界バレエ学校フェスティバル&アステラス・ガラ」(仮)	新国立劇場オペラ劇場	9月12日～13日	2回	2日
〃	研修所公演	新国立劇場中劇場	11月7日～8日	2回	2日
〃	修了公演	〃	3月20日～21日	2回	2日
演劇	演劇研修所 朗読劇+ダンス「オズマ隊長」	新国立劇場小劇場	8月20日～23日	4回	4日
〃	試演会	〃	10月27日～11月1日	6回	6日
〃	修了公演	〃	2月19日～24日	6回	6日
現代舞台芸術分野 (9公演) 合計				26回	28日

[別表11] 展示に関する計画

展示名称	会場	期間	日数	目標 来場者数
企画展示「歌舞伎の四季」(仮)	伝統芸能情報館 情報展示室	4/1～5/25	55日	7,441人
企画展示「養成事業の50年」(仮)		6/2～9/22	112日	24,304人
企画展示「舞台の花鳥風月 - 装いの美 - 」(仮)		10/1～1/27	114日	18,468人
企画展示「見世物関係資料展」(仮)		2/6～3/31	54日	10,422人
伝統芸能情報館 小計		4回	335日	60,635人
演芸資料展「エノケン - 日本の喜劇王 - 」(仮)	演芸場 資料展示室	4/1～7/26	98日	14,408人
演芸資料展「落語の風景」(仮)		8/1～11/23	94日	13,160人
演芸資料展「見世物の世界」(仮)		12/1～3/21	82日	12,710人
演芸場資料展示室 小計		3回	274日	40,278人
企画展 【日本博】日本人と自然 - 能楽と日本美術 -	能楽堂 資料展示室	4/8～6/28	73日	10,500人
入門展 【日本博】能楽入門		7/8～10/31	96日	14,000人
特別展「勲進能」		11/14～1/17	49日	7,004人
収蔵資料展		1/22～3/26	48日	6,800人
能楽堂資料展示室 小計		4回	266日	38,304人
企画展示「文楽の四季」	文楽劇場 資料展示室	4/4～5/17	44日	13,400人
常設展示「文楽入門」		6/5～9/13	88日	20,200人
企画展示「養成事業の50年」(仮)		10/10～12/3	55日	13,190人
常設展示「文楽入門」		1/3～3/7	64日	13,960人
文楽劇場資料展示室 小計		4回	251日	60,750人
企画展「極める—人間国宝の横顔—」	国立劇場おきなわ 資料展示室	4/11～6/21	72日	3,065人
企画展「琉球舞踊」		7/11～9/20	72日	3,065人
企画展「組踊」		10/10～12/20	72日	3,108人
企画展「沖縄芝居」		1/16～3/21	65日	2,762人
国立劇場おきなわ資料展示室 小計		4回	281日	12,000人
伝統芸能分野 合計		19回		211,967人
公演関連展示	舞台美術センター 資料館	通年	210日	500人
舞台美術センター資料館 小計			210日	500人
公演関係展示(劇場ホワイエ)	新国立劇場内	随時		-
公演関連展示(情報センター)		随時	230日	25,000人
公演関連展示(劇場内公開空地)		随時	358日	25,000人
新国立劇場内 小計				50,000人
現代舞台芸術分野 合計				50,500人

[別表12] 公開講座等に関する計画

講座等名称	会場	実施時期	回数
伝統芸能講座(展示関連講座等)	伝統芸能情報館レクチャー室	未定	7回
公演記録鑑賞会(特別公演記録鑑賞会2回を含む)	〃	毎月実施	12回
能楽鑑賞講座	能楽堂大講義室	年8回実施	8回
能楽特別講座	未定	年5回実施	5回
公演記録鑑賞会	文楽劇場小ホール	毎月実施	12回
伝統芸能講座(前年度延期分)	〃	未定	1回
文楽特別講座	〃	未定	4回
公演記録鑑賞会	国立劇場おきなわ小劇場	四半期毎	4回
沖縄伝統芸能公開講座	国立劇場おきなわ 大稽古室・会議室	四半期毎	4回
伝統芸能分野 合計			57回
現代舞台芸術公開講座	舞台美術センター資料館	未定	2回
DVD現代舞台芸術鑑賞会	〃	毎月実施	32回
現代舞台芸術講座	新国立劇場内	未定	15回
現代舞台芸術鑑賞会(情報センター上映会)	新国立劇場情報センター	毎月実施	32回
特別上映会	新国立劇場 小劇場	2020年11月	24回
現代舞台芸術分野 合計			105回

(単位：百万円)

区 分	助成事業	公演事業	養成研修 事業	調査研究 事業	法人共通	合計
収 入						
運営費交付金	274	8,455	657	623	1,495	11,503
雑収入	0	27	16	14	21	78
文化芸術振興費補助金	6,757	740				7,497
施設整備費補助金					421	421
文化資源活用事業費補助金		600				600
活動継続・技能向上等支援事業費補助金	47,537					47,537
基金運用収入	1,123					1,123
寄附金収入	200					200
その他の助成事業収入	12					12
公演事業収入		3,022				3,022
公演受託事業収入		2,840				2,840
計	55,903	15,683	673	637	1,937	74,833
支 出						
一般管理費					1,516	1,516
うち人件費					1,138	1,138
うち物件費					378	378
事業費	274	8,481	673	637		10,065
うち人件費	81	1,883	89	169		2,222
うち助成情報提供等事業費	193					193
うち国立劇場事業費		2,065	225	371		2,661
うち国立劇場おきなわ事業費		591	44	63		699
うち新国立劇場事業費		3,942	315	34		4,290
文化芸術振興費	6,757	740				7,497
施設整備費					421	421
文化資源活用事業費		600				600
活動継続・技能向上等支援事業費	47,537					47,537
うち人件費	56					56
うち物件費	47,480					47,480
基金助成事業費	1,335					1,335
うち人件費	201					201
うち物件費	1,134					1,134
公演事業費		3,022				3,022
公演受託事業費		2,840				2,840
計	55,903	15,683	673	637	1,937	74,833

(注) 四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。

(単位：百万円)

区 分	助成事業	公演事業	養成研修 事業	調査研究 事業	法人共通	合計
費用の部						
国立劇場公演等事業費		11,654	363	600		12,618
新国立劇場公演等事業費		4,297	319	54		4,670
基金助成事業費	55,924					55,924
一般管理費					1,353	1,353
財務費用	0	9	0	1	1	11
計	55,924	15,960	682	655	1,354	74,575
収益の部						
運営費交付金収益	264	7,755	645	575	1,156	10,395
事業収入	1,123	2,865	16			4,003
受託事業収入		2,840				2,840
財産利用収入		36		4	7	48
資産見返負債戻入	1	687	7	37	21	753
文化芸術振興費補助金収益	6,757	740				7,497
文化資源活用事業費補助金収益		600				600
活動継続・技能向上等支援事業費補助金収益	47,537					47,537
寄附金収益	200					200
賞与引当金見返に係る収益	6	157	7	15	66	252
退職給付引当金見返に係る収益	24	132	7	14	89	266
財務収益		121			0	121
雑益	12	27		10	14	64
計	55,924	15,960	682	655	1,354	74,575
純利益	—	—	—	—	—	—
積立金取崩額						—
総利益	—	—	—	—	—	—

(注) 四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。

(単位：百万円)

区 分	助成事業	公演事業	養成研修 事業	調査研究 事業	法人共通	合計
資金支出	65,563	17,683	673	637	5,447	90,003
業務活動による支出	58,798	15,068	670	577	1,404	76,517
投資活動による支出	1	2,491	2	28	453	2,976
財務活動による支出	4	124	0	32	80	241
翌年度への繰越金	6,760				3,510	10,270
資金収入	65,563	17,683	673	637	5,447	90,003
業務活動による収入	58,203	15,683	673	637	1,516	76,712
運営費交付金による収入	274	8,455	657	623	1,495	11,503
補助金による収入	54,294	1,340				55,634
公演事業による収入		3,022				3,022
公演受託事業による収入		2,840				2,840
養成事業による収入			16			16
基金運用による収入	1,123					1,123
その他の収入	2,512	27		14	21	2,575
投資活動による収入		2,000			421	2,421
施設整備費補助金による収入					421	421
その他の収入		2,000				2,000
財務活動による収入	600					600
民間出えん金の受入による収入	600					600
前年度よりの繰越金	6,760				3,510	10,270

(注) 四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。

別紙4 令和2年度施設及び設備に関する計画

(単位：百万円)

区 分	予定額	財源
国立劇場再整備事業	421	施設整備費補助金